

# シリーズ 「知っておきたい感染症」

公立学校共済組合近畿中央病院 たてばやし みさこ  
眼科部長 **建林 美佐子**

## 眼の感染症

眼科領域にはさまざまな感染症があります。今回は、健康な方にも身近に起こりうる流行性角結膜炎と、コンタクトレンズ装用に伴う角膜感染症についてご紹介します。

### 流行性角結膜炎

#### 流行性角結膜炎とは

流行性角結膜炎はアデノウイルスによる結膜炎で、「はやり目」ともよばれる感染力の強い病気です。家庭内や学校、職場内での集団感染の原因となります。

発症すると、結膜（しろめ）が充血し、瞼が腫れ、目やにが出る、自然に涙がでる、光がまぶしいなどの症状がでます。かゆみはあまりなく、むしろゴロゴロした目の痛みを訴えます。耳の前にあるリンパ節が腫れることもあります。炎症が強いと、瞼の裏の結膜の表面に「偽膜」という炎症性の白い膜ができることがあり、特に小さな子供にみられます。発症して1週間くらいたつと症状は徐々に快方に向かいますが、炎症が強い場合には角膜（くろめ）に点状の濁りができ、かすんで見える感じが続くことがあります。

夏に多いですが、年間を通してみられます。子供に多いとされますが、大人も含めて幅広い年齢で発症します。潜伏期間が数日～2週間と長く、最初は片目に発症しても数日以内に反対の目にも発症することがよくあり、7～8割が両眼性となります。

アデノウイルスに有効な抗ウイルス薬はない

のですが、過剰な炎症を抑え、細菌による二次感染を防止するための目薬で治療します。角膜に濁りができる場合にはステロイド点眼薬で治療しますが、濁りが消えるまでに数か月かかることもあります。

#### 流行性角結膜炎になったら

流行性角結膜炎は学校伝染病に指定されていて、感染力がなくなると医師が判断するまで登校は禁止となります。社会人でも集団感染を予防するうえで、仕事を休むことが望ましいです。眼科で正しく診断を受けることが大切です。

#### 感染を防ぐために

アデノウイルスは、伝染力が非常に強く、患者さんの目を触った手、その手で触ったもの、手や顔をふくタオルなどを介して他の人にうつります。うつらないためにもうつさないためにも、手をよく洗い、目を触らないことが大切です。

さらに、はやり目にかかった人は、目をふく時はティッシュペーパーをなどの使い捨てのものを使う、タオルは家族と別のものを使う、お風呂は最後に入るなどの注意が必要です。



流行性角結膜炎

## コンタクトレンズ装用に伴う 角膜感染症

### 角膜感染症とは

角膜に病原性を持った微生物が繁殖した状態を角膜感染症とよびます。角膜の表面は、角膜上皮という層に覆われていて微生物が侵入できないようになっていますが、角膜上皮に傷ができてしまうと微生物が付着し繁殖しやすくなります。痛みや充血、視力低下を生じ、失明につながることもあります。

コンタクトレンズに関連して角膜感染症を起こす微生物には、細菌、アカントアメーバなどがあります。患者さんの多くはソフトコンタクトレンズ装用者で、2週間交換タイプのソフトレンズ使用者が最多です。洗浄・消毒方法、使用期間、定期検査の指示を守っていないケースが多いです。毎日の消毒を怠ると、レンズやレンズケース内に細菌が繁殖しやすくなります。また、ソフトコンタクトレンズを装用すると、角膜上皮に傷ができて痛みを感じにくくなり、傷ついた眼に微生物の付着したレンズを装用することにより感染症を発症しやすくなります。

### 細菌性角膜炎

細菌が原因で起こる角膜感染症です。強い目の痛みを自覚し、大量の目やにがでて、角膜の一部が白く濁り、結膜が強く充血します。治療は抗菌薬を頻回に点眼し、重症な場合は抗菌薬の内服や点滴も併用します。細菌の種類により病状の進行が非常に早い場合があり、角膜が融けて穿孔する場合があります。治療で治った後にも角膜に濁りや変形が残り、視力が下がったままになることがあります。

### アカントアメーバ角膜炎

アカントアメーバは土壌や家の中のほこり、水道水にも広く存在し、細菌を食べて増殖します。患者さんのほとんどはソフトコンタクトレンズ使用者です。レンズケースの中の細菌が増えたとアカントアメーバも増殖し、汚染されたレンズを傷のついた角膜に装用することで感染を生じます。

症状は細菌性角膜炎と似ていますが、特に強い痛みを感じることもあります。特効薬がないため、すこしでも効果のある抗真菌薬や消毒薬を点眼する、角膜の表面を削るなど、いろいろな治療法を併用しても重症化しやすく、治療に数か月を要したり、角膜にひどい混濁ができて角膜移植以外に治療法がなくなったりする場合があります。

### コンタクトレンズによる 角膜感染を防ぐために

コンタクトレンズ装用方法を守り、洗浄、消毒を正しく行うことが重要です。眼科での定期検査をうけ、調子が悪い場合には装用を中止して診察を受けることが大切です。

